

◆田上（たのうえ）さんのプロフィール
 旧矢部町（現山都町）の農家の長男として昭和47年に就農。水田120aと野菜畑185a、樹園地150aを経営。有機農業は水稲から始め、現在90aでアイガモ農業を施す。畑では、サトイモやタマネギ等有機農業を行っている。有機JASの認定を受けている。



田上氏の横顔

◆有機農業を始めた動機
 山都町では昭和50年代に有機農業全国大会が開催されるほど、有機農業に取り組む農家が多く、平成元年頃、村山氏（有機グループ「御岳会」の会員）から「安全な農産物を作らないかと誘われたことが有機農業を始めるきっかけとなった。

◆技術的な点
 有機農業を始めたのは水稲から平成元年頃。最初は草取りで苦労したが、3年後に導入したアイガモ農法は除草の手間が減って画期的だった。野菜は根菜類は比較的簡単に有機農業が出来る。水稲も野菜も土作りが基本。野草・野菜くず・ゴミガラ・米ぬかで作った堆肥を施用している。グループで勉強会をしていて、合計57ha。（農協出荷者）

◆病害虫対策
 雑草や虫はアイガモが食べてくれる。病気が、野菜は根菜類が病害虫にかかりにくく、果菜類、葉菜類ではある程度の被害は前提。



元気に泳ぎ回るアイガモ。活躍してくれる姿が可愛い。

◆有機農業について

自然、有機農法そのものは、昔からその土地やしい資材を活かして、進化したもので特別なものではない。一般農家や流通業者などは近年では、一般農家の価値を優先して見ない。農産物の商品価値を問われてきた。しかし、日本の生活様式の中で新たな価値が現れた。食と農のあり方、新たな価値観が生かされようとしている。農業技術においでの持続的循環的な技術を活用する方向へ組織農業にあると思ふ。

◆アイガモの管理
 田植え後14日でアイガモを放し、夜間のみ小屋で管理する。水田をネットの雑草が無くならないようにネットを飛ばし、田んぼに入ってしまうのを防ぐ。アイガモは稲穂がのぼるまで食べてしまわないように、お盆前後には引き上げ、業者へ渡す（無料）。



水田でエサを待つアイガモ

◆今後の抱負

これまで通り、安全な農産物を信頼して待つ消費者や学校給食を食べてくれる子供たちへ届けることはもちろんのこと、有機農業を経営する農家にも実践しても、改良を重ね、この山都町も、技術的にも実践しても、改良を重ね、この山都町を有機農業の里として、底辺を少しでも楽しく拡大していきたい。

◆主な販売先

米は農協を通じて生協に出荷。野菜は7割が生協、後は自然食品店や宅配。市場出荷には馴染まない。有機米は足りない状況にある。

お問い合わせ
 電話・FAX
 0967-72-2195

◆ **田上（たのうえ）さんのプロフィール**
旧矢部町（現山都町）の農家の長男として
育ち、現在は山都町に在住。

◆ **病害虫対策**
雑草や虫はアイガモが食べてくれる。
病気に強い品種や、水田を放し、夜間

◆ **アイガモの管理**
田植え後14日でアイガモを放し、夜間
のみ小屋で管理する。水田をネットで囲